（版權所有）

明治二十一年七月十四日印刷
明治二十一年七月十六日出版

每月一回發行
壹冊正價廿錢
全國無郵送稅

通信女學講義錄

第拾壹卷

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

健兒大便の事

○育兒心得（第十一回）

船越鼎太郎講

問。赤子の下痢は如何なる徴候を現すものに候や。

答。赤子の下痢の徴候を申上くる前其健康の時には二十四時間に幾度位便通之れあり其色、稠度、臭氣は如何なる者なるやを御心得之れなくては不都合のことに候へハ平素健康なる時のことより申述べく候通例赤子ハ二十四時間に三度より六度の便通之れあり其色ハ橙に似たる黄色にして其稠度ハ西洋料理に用ふる芥子泥若くハ田樂豆腐に塗る味噌位にて臭氣ハ固有の微臭之れあるものに候然るに若し大便に厭ふへき一種の惡臭あるか若くハ其中に凝塊混し居る時ハ赤子ハ全く健康に之れあ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

便通緩むも病にあらさるなり

る間歟候。今茲に赤子あり廿四時間に六回より八回の便通を致し其稠度ハ既に講述申上けたるものよりハ濃厚之れわれとも泣くともなく腹痛の摸様も之れなく且つ乳を哺むとも常に變りたると之れなき節ハ格別御心配にハ及はぬとに候。腸の輕く緩むハ腸中に滯り居る大便を下たし或ハ生齒期に齒齦を刺衝するとの反動となりて自然に發ると之れあるものに候。斯る場合にハ腸の緩むハ赤子の爲めに大に宜きとなるに之れに止瀉藥を用ひ或ハ不熟練の醫師に其下痢多きとのみ頻りに御訟ひなされ止瀉藥を乞ふか如きハ實に愚のとにて誤りたる次第に御座候併し通例二十四時間に三回より六回の便

下痢の徵候

二

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

下痢の原因

通あるべきに十二回以上も之れあるか若くは水瀉にて之あるか若くは粘液狀にして綠色なるか或は凝塊ありて斑らに綠色となり居るか若くは嫌ふへき惡臭あるか若くハ便通多きのみならず赤子に氣勢なく毫も遊戯をなすとなく萬事に拗捩苦難を覺ふるか若くハ便通ある毎に腹痛を發す時ハ既に下痢を患ふると知るべし此時には藥用せらるゝと要用の儀に候。

問　下痢即ち腸の緩むとの原因に付き承り度候。

答　本病ハ赤子に多き病にして其原因ハ乳汁を飲み過させ或ハ不良食物を與ひ或ハ感冒せしめ或ハ生歯期の刺戟等に之れあるものに候又母乳の不良に由り即ち母

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

下痢の取扱方

親の不健康か或ハ不良食物を喰るか或ハ不適當下剤を用ひたるか或ハ既に妊娠したる后乳を哺ませしむるか之れ皆乳兒の下痢を促す原因となるものに御座候。

問　下痢の時にハ如何取扱ふて宜きものに候や。 四

答　原因の除かるへきものハ之れを除き腸中に大便ある時ハ萆麻子油の如き下剤を用ひ快通を得て後止瀉剤を用ひらるへく候其療治は醫師に依頼せらるゝ方安全に之れあるへく候。赤子には全く母乳のみを與へ母親ハ其食物に嚴重の注意を致たされ青物、不良香物不熟果實酒類は禁ぜらるべし。赤子の母乳を哺み居るものには別に人工に食物を製し與ふるには及ばぬとに御座候。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

赤痢の徴候

問　赤痢の徴候は如何に御座候や承りたし。

答　赤子は先づ數日間腸加答兒即ち下痢を患ひ二十四時間に十二回若くは之れに倍する程も便通あり大便は粘液狀にして泡沫を含み恰も蛙卵の如きものを混へ而して大便俄に其性質を變へ殆ど全く血液と粘液のみより成り腹痛頻にして裏急を促ふす其痛の甚きは叫泣、苦悶、膝を屈して腹上に致すを以て察せらるべし又絶へず嘔氣、嘔吐を催ふし益々衰弱に陷るものに候。患兒の容貌を見るに數日前までは肥滿、健康なりしに今は疲倦羸瘦憔悴老人の如く相成るものに候。

問　赤痢ハ如何致し取扱ふへきや御教示被下度候。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

答　赤痢ハ他人に傳染する病にして傳染病豫防規則に從て豫防をも致し巧者なる治療をも要するものに御座候へば必ず巧者なる醫師に依頼せられて其療治を受けらるべく候併し本病を看病する心得方ハ必要のとと存候へば左に申述べく候。

赤痢ハ始め下痢症を起し其原因も之れと同樣に御座候へば略同樣の取扱をなさるべく候。患兒母乳にて養育せらるゝ時ハ母乳のみを與へ他の食物ハ全く斷るべく候母親の乳汁宜しからざるか或ハ足らざる節ハ健康にして乳の澤山ある乳母を速に雇はるへし若し母親に乳汁なく又乳母をも雇ひ入るゝと能ハさる時は全く牛乳の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

みにて養育せらるへく候患兒に哺乳せしむるには一回に大量を與ふれハ忽ち嘔吐を起すものなれは數回に小量を用ひらるゝを善とす即ち一回に盃若くハ食匙にて一杯を與へ猶は腹部に苦悶の狀ある時ハ其半量とし猶苦悶の狀あらは一茶匙位を一時間に四回位用ひらるべく候母乳ハ他人の乳汁若くハ牛乳に遙に優さるものなれとも若し小兒一歲以上に達して既に乳離したるものにハ前述の法に由て牛乳を與へらるへし若し又患兒の非常に疲勞に陷りたるものには牛乳一食匙にブランデイ十五滴を加へて半時間毎に與へらるへく候。藥劑は全く醫師に委任せられ其排泄物にハ石炭酸水を投して他

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

呃逆

に傳染せさる樣豫防せらるへく候。赤痢の初期には溫湯に浴せしむるは大に效あるものに候へ共既に二三日も經過たるものハ衰弱甚くして之れに勝ると能はさるを以て氈毛を溫湯中に浸し之れを絞りて其身躰を纏ひ尙は其上を干燥たる氈毛にて卷き大凡半時間を經て后之れを解き褥中に安臥しむへし溫浴療法、濕布被包療法は痛疼を緩め安眠を得せしむへく又鹽溫石、湯タンポも簡便にして效あるものに候。

問　呃逆は如何なるとより起り其發りたる時は如何致すへきや。

答　呃逆ハ大概飽食より發るものにして格別恐るへき

八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

麻疹の徵候

ものに之れなく唯食物に注意せらるれハ宜しかるへく候。

問　麻疹の徵候及原因のことに付き伺度候。

答　麻疹ハ其形不正輪狀の紅色起斑を現はし其頂ハ白く身體の諸部に發すれとも顏面に現ハるゝは稀なるとに候本病ハ傳染する病にあらされとも數回發することあれあり而して之れを發したる所に久く現れ居るものにあらず一進一退して諸部に出沒するものに候其病狀ハ發熱、瘙癢、刺衝を發し其重きものハ患兒拗捩て遊戲ことなく苦悶の狀を現すものに候殊に褥中にありて溫暖に過きる時或ハ皮膚を急に外氣に觸れしむるときに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

甚し又皮膚を摩擦すれハ瘙痒刺衝加ハるのみならず新に發疹を増すものに候。

蕁麻疹の原因

蕁麻疹の原因ハ蕁麻に觸れたる時或ハ蚊、蚤、蛅蟖、臥牀蝨の刺咬に由り薄弱なる小兒ハ爬搔、摩擦等に由り又不適當の食物に由て發するものに候。

蕁麻疹の取扱方

問　蕁麻疹にハ如何なる取扱ひを致すへきものに候や。

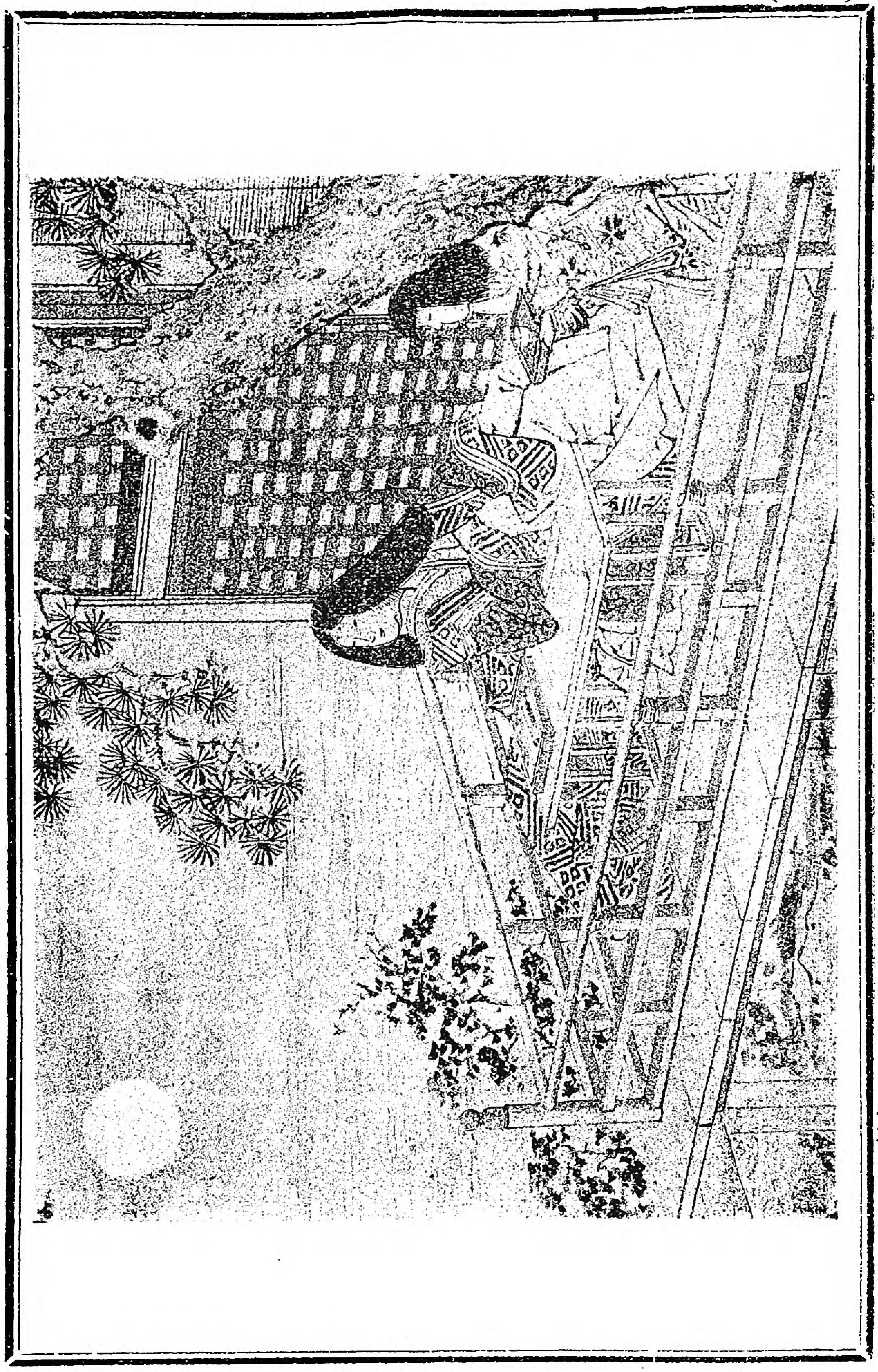
答　本病の原因を除くこと第一のことにして食物より來る時ハ吐劑下劑を用ひ毒蟲の咬刺より來る時ハ之れを避除るへし。溫湯に浴せしむるハ瘙痒、刺戟を緩解するに效ある者なれとも之れを冷水或ハ氷にて冷却するハ反て害あるものに候患兒の既に肉食するものならば一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

時之れを禁し數日間全く牛乳と粉質類の食物のみを與へらるへく候。

第拾卷育兒法の正誤
十五丁十行便道ハ便通の誤り
十八丁四行鼓ハ皷の誤り
十九丁九行大便をハ大便はの誤り
二十丁一行吐き、其の吐くを、ハ呱き、其呱くを、の誤り

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY



三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○女子生理（第十一回）　船越鼎太郎講

第二章　懐妊の事（其九）

流産

流産と早産との區別

懐妊第七ヶ月の末期に至らさるに胎兒を産出する時ハ流産とも半産とも小産とも云ひ第七ヶ月以後にして未だ臨月に至らさる時ハ之れを早産とも月足らずとも云ふなり。

流産の禍害

流産は若き婦人に多く一度之れをおかす時ハ不幸にも其癖を殘し懐妊する毎に流産をおかすか如き惡き習慣となることあり而して流産ハ惟に婦人の身體を衰弱に陷られ諸疾を引き起すのみならず鳳兒の特恩を受けて母親

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

流産の原因及豫防法を婦人自ら心得置くへき理由

たる千萬無量の快樂を極むる能ハず今ハ全く勢力なきも七去の教の中に子なきものハ去ると云ふとあり之れも嗣子なきハ一家の禍たるの故ならん。

流産ハ如何なる原因より起るものなるか又流産の時にハ身體に如何なる變動を起すものなるかを豫め心得置かれ之れを豫防せらるへし。婦人ハ生理學或ハ養生法の知識を具へさるも恥つるに足らず醫師あり産婆あり萬一の時ハ之に委任すれハ足れりと思ハるゝとあらハ大なる誤なり。流産の時に醫師の招かるゝハ多くハ既に切迫して之れを防く能ハさる時か或ハ流産したる後にあり。流産の豫防の如きハ懷娠中常に婦人の守るへきもの

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

流産の原因

にして決して他人に委ぬへき者にあらず實に婦人ハ此等の知識を備ひ居り自ら其豫防に當るべきの人なり之を豫防する能ハされハ災害を受くへきの本人なり此等の教戒を學ぶへきハ醫師若くハ書籍に依らさる可らず然れとも如斯とを細に醫師に尋ねらるゝは實際なし難きとなるへし故に此講義錄の如きも其座右にあらハ或ハ暗礁を示すの燈臺となり破船の難を免るへし。

些細の原因ハ母體より胎兒を分離し之れに由て胎兒を死に至らしめ流産を促すものあり流産の原因は平坦ならさる道路を人力車或は馬車に乘ると、長途を歩行し或は滊車に乘ると、又高足駄を穿き或は水桶を提げて轉倒

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

流産前の徴

すると、階梯より墮落すると、重荷を負ふと、舞踏騎馬を行ふと、衆人群居の場所に至り壓倒さるゝと、コルセット或ハ繃帶の如きを緊く締めると、其外身體を過勞すと、夜間遲く睡りに附くと、房事に耽けると、恐怖憤怒の如き精心に甚しき感動を受くると、不適當の下劑を用ふると、他に疾病ありて劇き咳嗽嘔吐を起すと、嘗て子宮に病あると等なり。

流産の前徴ハ身體倦怠、精神沈欝、腰部臀部内股、下腹に不安疲倦を感す。之れ婦人の最も忽にす可らさる大切の時期にして老練の醫師なれハ大概流産の來るを防くとを得へきものなり右の如き前徴あるも謹愼するとなく彌く

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

流産の候徴

其症候加ハる時ハ一二日を經て先つ小量の血液を降たし而して忽ち大出血を來たし其血液ハ暫時にして凝結血塊となるものなり此時には疼痛あるも輕くして尚は適當の取扱に由て流産を防くことあり。

尚は症候進めハ疼痛加はり其疼痛ハ始め劇しからずして且つ不正なりと雖漸く劇しくして正格くなり遂に流産するものなり流産に二期あり第一期は子宮より卵の分離ることにして第二期は子宮より卵の排出さるゝとなり第一期即ち子宮より卵の分離るときには必す血管破れ多少出血するものなり第二期には大出血に加ふるに疼痛あり之れ子宮收縮りて卵を排出さんとするを以

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

流産あるの時期

てなり子宮の卵と分離れたる後は最早子宮にて之れを榮養ふへきものにあらず全く異物たるを以て之れを排出さゞる可らず之れを排出さんには子宮の收縮を要し子宮の收縮まるには必す疼痛を發するものなり故に流産には必す出血と疼痛あるものなり流産の際出血と疼痛急に止む時は縱令卵の未た外陰部より出てさるも既に子宮より排出されたるを知るへし而して卵の子宮より膣道に出つれは諸症大に輕快なり速に排出さるゝものなり。

流産は姙娠中何れの時にも之れを起さゝるとなしと雖最も來り易きは姙娠後第八週より第十二週の間とす第

一八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

四ヶ月前の流産は不攝生をなすにあらざれば身體に害を及ぼすと少し如何なる時期に流産するも必ず多少出血あるものにして殊に第四ヶ月后には其量も多く従て危險も多きものなり流産は反て正産より危險多きものなれば正産に於けるが如く若くは之れよりも嚴重に攝生法を行ふべし。

胎児胎内にて死したる徴候

陣痛に類似したる疼痛に出血を兼ねたる時或は出血の量を増して大血塊を漏したる時或は乳腺の小さく軟かくなりたる時或は之れまで乳腺を壓搾れば乳汁を出だしたるものゝ急に分泌さゞる様になりたる時或は腹部の大さを減じて之れに寒冷と重きとの感覺ある時或は嘗

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て胎動を感じたるもの之れを感ぜざるに至る時或ハ子宮の邊りに重き塊り動き姙婦身體の位置を變ゆれば腹内に於て動搖する時ハ胎兒の已に既に死に陷りたるを察すべし斯くの如き場合にハ必ず醫師の診察を乞ふべし流産の前徴ありてより概ね五六日にして終るものなれども又二週間甚きハ三週間も時日を要することあり」聊にても流産の前徴ある時ハ褥に就くと勘要なり身體を運動せずと雖坐するハ平臥の如き効あるものにあらず之れ安坐ハ四肢を休息せしむるも腹部を平安にすると能ハざればなり蒲團を餘り重ねて身體を其中に沒せしむるが如くするよりハ稍や硬き蒲團を用ふるを優れ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

流産したる時の攝生法

りとす房事を謹み閨房ハ清涼にして閑靜なるを要し夏期ハ窓を開きて涼風を通すへし食物ハ淡泊なるものを撰み白粥温飩素麪葛湯の如きを用ふへし又流産にハ熱き食物ハ宜しからず下劑を用ふるハ嚴禁とし出血甚き時ハ外陰部を冷水にて冷却すへし排出したるものハ凡て之れを保藏置き醫師の檢査に備ふへし其排出したるものを實檢するにあらされハ果して流産なりと即坐に診斷すると能はさる場合あり血液も凝固まれハ色々の形狀をなすものなれハ素人ハ之れを鑑別する能はずして妄に流産なりと見做すとあり。

流産したる時にハ分娩したる時と同樣の攝生法を守り

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

數日間褥に就き後回に講述する産褥中の食養生を行ひ辛戟食物を絶つへし流産の時に不攝生をなしたるより甚た嫌ふへき疾病を起すと數々あるハ婦人病の病歴中多く見る所なれは最も謹むへきとなり。

流産したる婦人ハ再ひ姙娠するまての間に充分の攝生法を行ひ其身體を强壯にせさる可らす其最も宜しきハ健康の場所を撰み數月間夫と別居するにあり然れとも雜沓する温泉場或ハ交際の繁き友人の家抔ハ宜しからず田舍の如き閑靜なる場所を撰み精神と身體とを保養すへし朝は早く起き閨房ハ空氣の流通を宜くし夜具ハ餘り厚からさるものを撰むへし食物は淡泊にして滋養

流産の癖ある婦人姙娠したる時の攝生法

分に富むものを食し適宜の輕き運動を行ふへし又每朝冷水にて全身を拭き其後乾きたる手拭にて摩擦るへし若し之れを冬日に始むる時は先つ微温湯を用ひ漸々冷くして遂に冷水に至らしむへし婦人強壯にして之れに堪ゆるものハ灌水法を行ふへし之れ實に身躰を強壯にするの良法なり（既に姙娠し居る婦人にハ灌水法過劇に彌り流産を促すの恐あれは謹むへし然れとも冷水にて全身を拭ふか如きは廢す可らず）。

流産の癖ある婦人にして姙娠したる時は晝夜の別なく務めて平臥し身體及精神を安靜に保ち淡泊の食物を喰べ酒類を用ふ可らす夜は早く寢ね房事を禁すへし下劑

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ハ流産を促すの原因となるものなれハ妄に之れを用ふ可らすされとも便秘するハ亦宜しからさるを以て之れを用ひんとならハ蓖麻子油の如き最緩和のものを撰むか或ハ灌腸を行ふへし、毎日静に逍遥するハ希望する所なれとも長途を歩行し或ハ車の類に乗るハ最も戒むへきことなり海濱に遊ふハ流産を防くに效なきにハあらされとも其行路遠くして久く車に乗り、或ハ游泳をなし或ハ航海をするか如きハ謹むへきことなり。

流産の癖ある婦人にして嘗て流産したる期節に至らんとする時ハ之れまてより一層厳重の攝生法を行ひ晝夜大概褥にある様に致たし精神を安静にせんか爲めにハ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

交際を絶ち愉快なるとと雖甚く感動するとハ務めて避け清涼にして流通宜き室内に安臥すへし若し便秘する時ハ温湯の灌腸を行ひ食物ハ淡泊にして滋養に富むものを用ひ酒類ハ素より禁すへし聊にても流産の前徴ありて腰部臀部下腹等に疼痛を覚ふるか小量と雖出血するとあらハ直に醫師を招きて其豫防法を行なはさる可らず。

第拾卷女子生理正誤　三十二丁一行纖痿ハ癥瘕の誤り、同九行の眉ハ肩の誤なり、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

アウガスチンと母モニカの肖像

賢妻たり賢母たり千歳婦女の軌範たるモニカの佳傳は女學雜誌第百十四號に就て見べし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○百人一首講義

第三回

鈴木弘恭講

八木鶴二記

参議篁

篁姓は小野。大貳岑守の子にて。歌及び書を能くせり。仁明天皇の承和年中藤原常嗣と共に遣唐使に任ぜられ。さて發船の時に望みて常嗣と爭論のとによりて。隱岐の國に配流せられました。此の歌はその時船中にてよまれたる歌であります。後召しかへされて參議に任ぜられ。彈正大弼になり。文德天皇の仁壽二年に卒去ける人であります。

わだの原やそしまかけてこぎいでぬと人にはつげよあまのつり舟

此の歌は古今集にのせてあります。その詞書に。おきの國にながされけるときにふねにのりて出たつとて京なる人のもとにつかはしける。と書てあります○わたの原は。海をワタツミといふより海原をわたの原といふのであります。はらのとは先回天の原の所にて委しく申して置きました通り廣き所をはらといふのであります。さてわだとは。古人の說に海神をわたつみの神といふより海をわだといふ。又た一說に海は舟にて渡る故に渡つ水の義にといふ。按るにわだ蜿蟠などのわたにて大水の蜿蟠てある所なれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ばわたつみといふのであります。則ちたぎる水を瀧といひ。よどめる水を淀といふと同意であります〇やそしまは。イヤソにてそは數の多き義なり。故に十の字をそとよむ。しまはシバにて地勢のしばまりてある義なり。故にしまもせまも同言であります〇あまは漁夫の總名なり。故に男女の別なくあまといふなり。蜑の字。又海士ともかくは假借字なり。さて此のあまといふ言は大の義にて。天の原のあまも。數多のあまも同じことなり。大なる場所にて漁取りの業する故にあまとはいふのであります〇一首の意は。今我は大海の八十島をかけて船出したと京の人に告げ知らせてくれよ蜑の釣舟どもよとなり。此の中に京都の家族や友人もなつかしければ。書にて申送りたく思へども。罪人の身にて憚りあり。願くは今我が見て打過ぎゆく此の釣舟どもよ一言傳へてくれ。京都には定めて人々が案じて居るであらうといふ意を含めたり。此の歌は八十島かけてといふ二の句に尤も力があります。人の氣のつかぬ所なれど此の一句にて。遙々と海上數百里を航して隱岐に行くさまをあらはしたのであります。まづかけてとは。かゝりてといふとにて遠く航海するには。海が荒るゝとか風がわるいとかいふと。島かげ又たは湊などに船がゝりをして。日和を待て行くことなれば。その航海の苦難なると舟路の遙

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

かあるとをしらせたのであります○語格は。二段切れの歌にて四の句の使令言のよにて切れ又五の句にて切れたのであります。

僧正遍昭

遍昭は俗稱を良岑宗貞といひ。右大將安世の子であります。仁明天皇の時藏人頭にてよるひるつかうまつりけるが。崩御になると直に叡山に上りて。慈恵僧正の弟子となり名を遍昭と改めたり。德行堅固にして。性洒落を好み花頂山の庵室に住みたれば花山の僧正とも申しました。後にまた雲林院を賜はりてそこにうつりて住みましたが。此の歌は俗の時に詠れたる歌であります。

天つ風くものかよひち吹とぢよをとめのすがたしばしとゞめん

此の歌は古今集にのせてあります。五節の舞姫を見てよまれたる歌にて。五節の舞とは中古の頃毎年十一月朝廷にありし御式であります○天つ風は。天の風なり。このつは添ていふ言なれども所といふ義にて。天つ星。國つ社。わたつ海。遠つ國。などのつは皆同意であります○くものかよひぢは。雲の通路と。舞姫を天女と見做したるゆゑに天に翔りて歸る路といふ意であります○をとめは。若き女のこと。万葉集には少

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女未通女とかいてをとめよませてあります。今乙女とかくはよろしくない。乙はおとの假名にて假名も違ひます○志ばしは少時之○一首の意は。天の風少女の通ふ雲路を吹き閉ちてくれよ此のうるはしき天女の姿をいま暫時とゞめて見てありたいとであると之。舞姫の美麗なるを見て人間ではあるまい天女ならんと思ひて。よめるさま之○語格は。二段切れの歌にて三の句の使令言にて切れ。又五の句にて切れたり。とゞめむのむは徒の結びであります。

陽成院の御製

是は陽成天皇と改めて然るべきやうなれども。今志ばらく舊のまゝにしておきます。御諱は貞明清和天皇第一の皇子にまします。御歳九才にて禪を受賜ひ。御歳十七にて御位を譲り賜ひ。上皇にて長くおはしましたる帝であります。

筑波根のみねよりおつるみなの川こひぞつもりてふちとなりぬる

此の御歌は。後撰集にのせたる戀の御歌であります○筑波根は常陸の國にある名山之。根は假借字にて嶺巓岑峯の字いづれもねとよめり。山の高き所をいふ之。又みねといふは眞嶺にて最も高き所といふ意にて。山といひ。み山といふと同意であります。さて

三〇

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

筑波ねのみねと云てハねか重なるやうでありますが。秋の田のかりほのいほと語路の續きにてかさねたると同意にて。筑波ねのみねよりおつるハ。なほ筑波山の嶺より落るといふほどの言であります○みなの川ハ。この山の嶺に有て常にハ水なければ水無の川といふ也。雪解のとき。或ハ大雨の時に始めて流るゝ也。然れども此の川の末を櫻川といひてつねに水の流るゝハ。水無の川の水の一滴づゝ岩根を傳ひ土中を潜りて流れ落るなりと。古よりいひ傳へてあれば。これをとりてよませ給へたのであります○一首の意ハ。筑波山の嶺より落るみなの川の人に知られないで淵となりて流るゝが如く。我が戀も人に知られないけれども。積りて淵の如く深くなりてあるよと也。此御歌ハみなの川と云ふまでハ序の意にてよみなし給へるやうに見ゆれど。此の川の因によりて殊に巧みによみなし給へる也○語格ハ。一段切れの御歌也。こひぞといふぞが指辭にて。ふちとなりぬるのぬるにて結べる也。

河原左大臣

左大臣ハ。源融公のことであります。公ハ嵯峨天皇第八の皇子にて。詠歌に長じ給ひ。從一位左大臣に昇りて。六條河原の邸に奥州塩竈の浦を摸造して住み給ひしに因

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りて。世の人河原左大臣と稱し奉たのであります。
みちのくのしのぶもぢずり誰ゆゑに亂れそめにし我ならなくに
此の歌は。古今集にのせてありて。題知らずとある戀の部の歌でありますが。古今集にはみだれんとおもふとあります〇みちのくは陸奥也〇しのぶもぢずりとは。奥州信夫郡の名産にて忍草を紋に摺りたる綿布をしのぶもぢずりといふ也。もぢはみだしの約言であります。さてみぢをもぢといふは。もどろとみだら同言なればかくもいふのであります。則ち下のみだれといふ序にいひなしたるにて。みだしずりのみだれとかゝりたる語路にて。一二の句には別に意はありません〇我ならなくには。我あらぬにといふこと也。なくはぬの延言なれば。なくを約むればぬとなる也。には副詞のににてそへていふまでにて別に意なし〇一首の意は。みちのくのしのぶもぢずりの如く我が心の亂れしは。誰ゆゑに亂れ初にしならん。我心から亂れたのではないのに。してみれば誰ゆゑではないやはり君ゆゑに亂れたのである。といひて戀しき君におくれる歌であります。また古今集の如く。みだれんと思ふ我ならなくに。とする時は少意も異りますが。大意は同じことであります〇語格は。一段切れの歌にて。三の句の誰ゆゑに

三二

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

のたれが指辭にて。四の句のにしにて切れました。五の句の我ならなくにハ例の上へうちかへして意を強むる格之。又たれといふ指辭ハ。ぞやかの何などいふ何と同種類の指辭であります。

光孝天皇

天皇御諱ハ時康。仁明天皇第三の皇子之。つねに學問を好み給ひて遊ばしましたが。五十餘歳にて禪を受て御位に即き給ひたのであります。小松帝と申しあげたのも此の天皇の御事であります。

きみがためはるの野に出てわかなつむ我衣手に雪ハふりつゝ

此の御歌ハ古今集にのせてありて。詞書に仁和のみかどみこにおはしましけるときに人にわかなたまひける御歌とあり。仁和のみかどとハ。此の天皇の御事であります。則ち天皇がまだ皇子にてまし〱ける時。誰にもあれ人に若菜を給ひけるときの御歌であります。或云これハ彼の後に昭宣公と申したる。當時の攝政藤原の基經に給ひたるなりと。又新撰集にハ此の御歌をよみ人志らずとしてありますが。これハ古今集に從ひて時康皇子の御うたなると疑ひもありません。此の御歌ハ至りて安らかなれバ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

誰にもよくわかる御うたでありますさて是は古へは正月八日(今の一月七日)菜羹を服すれば万病邪氣を除くといひて。皆食したり。近き頃までも此事はありましたが。今も田舎には此の事が殘りてをります○我衣手とは。袖のこと。衣の字はそとよみますから衣手とかいてそでともよみます。後世に至りてはたゞ衣といふべき所をも手の字を添てころもでといふやうにありましたが。これは心得ちがひであります○一首の意は。卿に進らせん爲に。餘寒のまだはげしい春の野に立出て若菜を摘ましたが。我が衣の袖に雪がふりかゝり降りかゝりして寒むかつたとである。さてかやうのつまらぬ野菜ではありますが。我が志のほどを受させ給へとの御意の歌なり○語格は。一段切れの御歌にて五の句雪はのはか指辭にてふりつゝのつゝにて結びたる格であります。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

〇家內理學　（第八回）

第七章　温熱の性質並に効驗の事　（中）

異温と云ふ事

前に申す溶化點と同樣の事なるが、惣べて、或る物が熱氣を受取りて熱くなるには、其物の品何如によりて、大層の相違あるなり、例へば、茲に一つのランプあり、此の火にて、テレビン油若干を、十分間温ため、先づ五十度丈けの温度となし得べしと假り定むれば此のランプを其儘に用ひて、右テレビン油に同じ目方丈けの水を、同じく十分間温ためんに、此度は決して五十度の温度と成らず、之れよりも遙かに冷やかなるを覺ゆ、即ち之を五十度丈けに温ためんには、丁度前に二倍丈けの温度となし彼の一つのラ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ムプに、最う更らに一つの同様なるランプを添へて、恰かも前に二倍の力にて熱するときは、初めて十分間にて五十度となるべし。或は亦た前同様たゞ一つのランプを用ゆるならば、十分間を二倍にして、凡そ二十分間温ためたらば即ち五十度となるべし、故に之を一言に約すれば、水はテレビン油に於けるもの丶二倍の温度を受けて、初めて之と均しき温たかさに至るべき也。斯様に、物の品によつて、熱を受くるに多少あるゆへ、彼の水銀を何分間か温ためて、若干の度までに昇らせ、而して此と同様の温度に迄まで水を温ためんとするには、凡そ水銀に於ける時に三十倍する丈けの熱力を與へざれば、決して同じき程の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

温度とはならざる也。左れば、萬物此の如く其の品によつて、熱を受けて、之に感ずるに厚薄あるゆへ、此の熱に感ずるの厚薄をば、其物品の異温(スペシヒック、ヒート)の相違とは申す而して異温の多きものほど、其の温たゝめらるゝに多くの温度を要し、異温の少なきものほど其温たゝめらるゝに少しの温度にて足れり、故に若し水の異温を千として、其外の物品の異温を比較すれば、それ〴〵に左の如き厚薄あるなり。

水	一〇〇〇
炭	二四一
硫黄	二〇三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ガラス	一九八
鐵	一一三、七九
亞鉛	九九、五五
銅	九五、一五
水銀	三三、三二

但し之は皆な同一の目方丈けの品を用つて試驗したるものなり。

水の異温の多き利益

扨て、異温の多きとは、即はち其の温たゝめらるゝとの遲きとなるが、凡そ温ためらるゝとの遲きものは、亦た冷ゆるとの甚はだ遲きものなり、夫故へ水は其の異温尤も多くして、中々に温ためらるゝことの遲きゆへに、隨つて亦

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

た其の冷却すると遲し、然るに之は造化の妙工にして、天地の取扱の上に、余程大切の關係あるもの也、何んとなれば、世界中に尤も多く存在するは、水にして、彼の洋、海、河、川にある水は言ふ迄もなく、空にかゝる雲も霧も亦た水なれば、人の躰內に存するもの及び口より吐き出す息氣も亦た多くは水なり、斯樣に多く水あるゆへに、若し此の水の異温はなはだ少くして、隨て急に温つくなり又急に冷たくなるようにては、第一天地間の氣候の變化も恐ろしき程に急激なるべく、次に人の身躰の熱つくなり寒くなるとも、亦た大層に激しからんものを、左はなくして、其異温甚だ多く、急に温つくもならず、又急に冷たくも成

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

潛熱の事

らず、常にゆる〳〵として變化しもてゆくが故に、氣候も之が爲めに調和し、人も之が爲めに健康にてあるなり、水の異溫の多き利益は蓋し莫大の事ならん。

(注)異溫の多きものは、熱を受取ると甚だ多く、之を保つと甚はだ久しく、之を失ふと甚はだ遲きものり。

物の輕ろし重もしと云ふは、一つには、若干の容量の中に存する、其分子の多少の事にて、其の容量の中に、分子多ければ重くなり少なければ輕ろくなるものなり、然るに此の分子の多くなり少なくなるとは、卽ち其の物品を密に叩き付けたるときと、輕ろく擴ろめて置くときとに由て出で來るとなり、故に、一寸立方の鐵を大層に固く叩けば

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

八分立方ともなるべし、既に八分立方と成れば、前に一寸立方にて在りしときよりは、其中の分子が密になりしとにて、言ひ換ゆれば、未だ叩き付けざる一寸立方の鐵よりは、其目方の重き道理なり。然るに、斯樣にして其分子を密かにするか或は又た其の反對にて、之が分子を疎らくするときは、其の疎密になるに隨つて、其時々の温度に多少の變化あるを見る、即ち分子が疎なりしときに少しも温かならざりしものが、之を密にするときは急に温かくなるとあるなり、之を何故と云ふに、蓋し温氣の元素とも稱すべき温素は、此の分子と分子との間だの空隙の如き所ろに隠れて存在せしとならんに、其分子が一層に密着す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るに至りて、最早や隠れて存在する所ろなく、止むを得ず外に現はれて、其の温氣を出すものか、之を喩ふるに、彼のスポンヂと申す海綿は、之を有の儘にして水の中に浸せば、其の分子の間だ〳〵に多くの水を含むなり、然し若し手にて之を壓すれば、先きには間だ〳〵の空に隠れ居つたる水が、今まは搾り出されて、外に現はるゝが如し、彼の或る物を叩き付けて、其分子の間だ〳〵を壓迫するときは、元と其の處ろに隠れ居たる温素、止を得ず外に出で、、則はち其の物を温たゝむるものなるべし、故に彼の冷たき鐵を金槌にて打ち叩けば、其鐵乍ちまちに熱すべし、又た空氣を空氣筒と云へるものゝ中に入れて之を強く壓迫

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

するときは、之も亦た大層の熱を出すべし、元來は何んともなく、反つて冷やかなりしものが、斯樣に急に熱するものは、即はち元と其の分子の間隙に隱れ居たる温氣の現出するにあらずんばあらじ。此の隱れ居る温氣をば、夫れゆへ、潜熱、英語にレーテント、ヒートと申す、潜熱は平常人の膚にも感ぜられざるほどなれ共、もし一たん物が壓迫せらるゝときは、即ハち乍まちに現はれ出るものにてあるなり。

水に存する潜熱の事

此の譯ゆへ、一つの固形躰が流動躰に變はるときは、即ハち丁度此の反對にて、必らず多少の温熱が隱れて潜熱とは成るなり、例へば、零點の氷若干を取つて、此の中へ寒暖

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

計を入れ置き、而して之に熱を當て、温たゝめんに、寒暖計は三十二度に至る迄で昇るべし、然し之れよりは、最早どれ程に熱を與ふるとも、寒暖計は昇らず、反つて氷の段々と溶くるを見るべし、而して其の氷の溶け了る迄は、寒暖計毫しも昇らざるなり、斯て氷全く溶け了るや、則ち、寒暖計も昇るとを初じめ、水も亦た温まるとを初じむ、見るべし、此の氷の溶け了る迄では、當てたる温度は、悉く溶けたる水の中に隱れ去つたるものゆへ、現に寒暖計を一度をだも昇さゞるなれ、即はち是れ、固形物が流動躰と爲る時に多くの温度を潛熱と爲すの證なり。而して、此の潛熱と爲る温度は、實際何れ程の多さなるやと問ふに、之は計

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

人造氷の事

算にて能く分かるとなり、先づ三十二度の氷百目に百七十四度の温湯百目を混じ、一處に合するときは、氷は溶けて三十二度の水二百目を得べし、故に湯の一百目は、都合百四十二度の温度を失ひ去つたる譯にて、此の温度は、即はち潜熱と爲り去りたるものなり、凡そ如此く物を液躰にするときには、多少の熱、潜熱と爲り、又液躰を固形躰にするときには、丁度其の反對にて、即ハち多少の熱を現ずる也。

又た或る物品は、熱に當らず、只だ親和の力によりて溶くるとあり、然し其の時と云へども、矢張り同樣に潜熱と云へるを生ずるものなり、例へば、鹽（もしくは硝石の如き）を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

並みの水に混ずれば、此の水一層に冷たくなるべし、其の理由は、鹽と水と混合し親和するには、其れ丈けの熱を要するとゆへ、其の熱をば、水の中より引去り、之を潜熱としたり、左れば其の熱を取られたる丈けに、水は冷たくなるものなり、此故に、硇砂五分硝石五分を能く粉なにして、之に十九分の水を混ずれば、水の温度、もと五十度なりしが、急に十度となるべし、即ち四十度を之が爲めに引き去られたるにて、此れ丈けは、所云る潜熱となりしものなり、又た雪若干に、其の目方の三分一の鹽を混ずれば、雪乍ちまにして溶くべし、之れ雪と鹽と親和する爲めに、四面の温氣を引去り、之を潜熱にして、自から温たゝむるの故に、因

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

るなり、斯樣の譯ゆへ、夏の日にアイスクリームの如き者を造らんとするには、氷を碎きたるものに鹽を混ぜて、其の溶けて鹽水と爲らんとする時、牛乳のクリーム砂糖鷄卵などを混ぜたるものを、何かの器に入れて、之を彼の鹽水の中に浸せば、此の鹽水の非常に冷たきによつて、クリームなど相互に氷り、手輕のアイスクリームと爲るべし。

右何れにしても、或る物品が溶解して液躰と爲るとき、多少の熱を其の近邊より引去つて、之を潜熱と爲す、而して此の熱を引去られたる近邊の何者かは、亦た其れ丈けに冷たくなるとの道理を示すものなり。

扨て、斯樣に、或る固形の物品が液躰と爲るときに、多少の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

氷結は熱を出す及び宇宙大妙工の事

熱氣をば潜熱と爲し、隱くすとせば、丁度其の反對にて、或る流動の液躰が硬まつて固形の物品と爲るときには、亦た多少の潜然を現はして、之を感覺すべき温氣とは爲すべし、之れ既でに前にも申し置きたる明白の道理なり、故に、春に至り、雪又は氷の溶くる爲めには、莫大の熱を要するとゆへ、急には溶解するあたはず、甚はだゆるやかに段々と溶くるとなるが、(若し一朝一夕にして溶けなんには天地大害を受くべし)其の如く冬に至り水が固まつて雪と爲り氷と爲るに、其の固まるが爲めに水の中に隱れ居たりき潜熱を外に現はして、幾分か四方を温たゝめ以て寒氣の急に來るとなからしむ、(若し然るとなくば、雪ふり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

氷張るや、天地乍まち寒を極むべし、然るに、雪降りたる朝た、反つて温かく、雪の溶くるとき反つて寒きは、即ち此處の道理による也。故に、物の氷るは、温氣を生ずるなり、氷の溶くるは冷氣を生ずるなり、春は氷雪の溶けて冷氣を生ずるにより、春暖の來るゆるやかなり、秋は、氷雪の固結して温氣を生ずるにより、冬寒の來る亦ゆるやかなり、若し此の潜熱の隱れ見ハるゝ出沒の道理なくんは、春は不測の洪水を起し、秋は突然として極寒を來らし、人間の害を蒙むると莫大ならん、其の然らざるは、一に造化のとゝのへ方の妙を極むるに由るなり。

潜熱の事は、先づ之にて擱おき、湯を煮立るとき、最初水の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（〇九）湯の煮立る時の事

中より小さき泡が次第に上に登るを見ん、之は、水の中には、空氣が混ざり居るとにて、大抵水百分に付、四分位ひは、是非とも空氣を含み居るに付き、之が温たゝめらるゝと共に膨脹して、上に逃るゝに由るなり、然し、餘程温たゝかくなりたるのち、鍋の底に大きなる泡が出來て、此の泡ゆる〱と上に昇り、中途に至つて消滅し、亦た其の底に同様の泡が出來て、上に昇る途中にて消滅し、斯様の事を度々くりかへす中に、湯は、次第に煮立ち、遂に沸々たる聲を發して、大に沸え立つに至らん、此の鍋の底に出來たる大なる泡とは、即ち鍋の底の尤も熱したる所ろに出來るものにて、實は、水が熱の爲めに蒸發したる蒸氣の玉にてあ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

沸騰に遲速ある事

るなり、（最初に言ひたる如き空氣には非ず）然るに、此の蒸氣、段々上に昇るに隨ひ、上部の冷たき水に觸れて、復たび冷却し消滅して元の水と爲るとなり、然るに、毎度かように其の玉が冷却する丈けに、上部の水を温ため、遂に全躰大ひに熱するに至つては、最早や彼の玉は途中にて消滅するを須ひず、其儘、水面まで立昇るが故に茲に湯をして煮立たしむる、沸々の聲をば生ずるとなり、故に彼の湯の煮立つときに、シュン〳〵と鳴り、グツ〳〵と鳴るは、此の數多の蒸氣の玉が、上に昇り行くとき、互ひに突き當り、若くは振るひ動くが故に發する響ならんと思はる。

扨て、斯樣に湯の煮立つと、其外何かの液躰の煮立つを沸

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

騰と申し、沸騰に至る溫度を、沸騰點と申すが、此の沸騰點は、液躰の品によつて、高下あり、然るに同一のもの丶沸騰點にても、時と場合によつて、亦た高下あるなり、例へば、湯は底の粗らき鍋にては、早く沸き、其の滑らかなるものにては遲く、彼のガラスの如きものにて煮るときは、大ひに遲しと云ふ、是れ蓋し彼の尤も熱したる底より、蒸氣の玉を出さしむるとき、面の滑らかなるものは水との着合の密なるより、自然に其の離るゝと難く、面の粗らきものは着合の密ならざるより、自然に其の離るゝと易く、隨て煮立つとに遲速あるならん歟、此故に、油を入れたる鍋の上に水を入れて煮れば、ガラスにて煮るときよりも、凡そ二

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

度はども低き温度にて、既に煮立つを見ん、之れ油に於ては水の底に於ての着合ひ薄くして、水の煮上るを引止るとの毫も之れ無きが故なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

定價金五十錢繪入美本

中島俊子女史著

善惡之岐

●目次○野雞とも言へ未開とも言へ實に太平の里なるべし○高島田にやの字の娘五分さかやきに無刀の浪士○紅潮端なく上る佳人の面○一樹の名花春動く初○谿間の清流も繁都の泥水なりしを知らずや○雙腕の勇餘す所なく満腹の智遺す所なし○撫松庵のみ能く撫松庵の胸中を知れり○痴夢情烟春月暗○誰知一渦愛情水散湧奔波激浪來○世上の功名灰塵に異ならず○錢嚢痩腹神飢以て天下の經濟を論ず○貧生の慷慨特に足らず○當路の君子にして袖の下を嫌ふものはあらじ○雙蝶花に戯れて春情あり○歡樂のある處悲愁の伏する處○姉妹の談濃かにして春窓の燭微かなり○恐もなく怒もなきは交りと愛と共に新なるによる○撫松庵が胸邊寒く吹き送る隙間の風ぞ聢し○世離海より深かく人情紙よりも薄し○會離縁あり應報爭ふべからず○優なる哉水聲人事の齷齪を嘲る○情人の艶話唯閑雲の開くあるのみ○上帝親なく唯善人に與みす○客窓涙あり孝子の情○茲ゝ因ありて茲に果あり○人間の歡樂一場の夢○墜葉翻つて力なく懶禽啼て恨あり○地下の白骨士いまだ冷かならず病窓の美人恨愈多し○開花原是落花風○人の死する其言ふとや善し

女學雜誌社

五四

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

水蒸氣の空氣中に存する影響

○地文學講義

第四回　空氣

第三章　空氣中の水蒸氣蒸發凝集

空氣中に水蒸氣の存するは、一は以て空氣が頓かに冷却するを防ぎ、二は以て日光が餘まり急に地を燒き燥かすを防ぎ其の寒温を調えて都合よくするの大効能あるとは前に於て既に述べたるが如し、然るに空氣中に水蒸氣の存するは、此外にも尚ほ數多の結果を起すとあれば、左に之を例の如く平易に說き明さんとするに當り、先づ第一に水蒸氣は何如にして空氣中に入りたるか、又た何如にして水蒸氣は空氣中より出で去るべきか、此の二つ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

濕氣なかりし處ろに露を生ず

の事を講述すべし。
今ま一室に炭火を起して可成りに室內を温ためたらんに室內相應に燥きて別段に濕氣ありとは思はれざるとあらん、然るに茲に若干の水を瓶に入れて、此の處ろに持ち來れりと想像せよ、暫時にして瓶の表面にカスミの如き曇りを生するを見ん、此の曇り段々に濃ゆくなりて、遂に點々たる滴の如きものとなり、滴々として下に落るに至らん、又其夜と爲りて四面甚はだ寒く、ガラスの窓も冷やかあらんときに、室內に數人寄り合ひて、物語るときは、之が爲めに室內も稍や温たゝかと爲れりしように思はるゝとあるが、此時窓のガラスを見るに、硝子の板に亦も

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

水氣の來り―元因及其凝集

や露の如き點滴の凝まりて落るを見ん。右二つの實例に於て、彼のカスミの如き露の如き水氣は、そも〳〵何の處ろより來りしものなるか、第一に吟味したきと也。

此の水氣は、瓶の外面より湧き出でしにもあるまじ、又たガラス窓より汗の如くにして出でしにもあるまじ、即ハち全くは其室內の空氣中に水蒸氣と云へるものが澤山に發散し居りたるが、物の冷たき處ろに觸れて、遂に斯の如くに現ハれたるもの、ならん、蓋し瓶中の水もしくは人々が吐き出す息氣の中には、水蒸氣と申して、人目に見る可らざる一種の水氣存するなり、而して此の水蒸氣とは、決して人目に見る可らざるを申し、人の目に觸るべきは

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

空氣の温暖と水蒸氣を保つ量の多少

學術上にて之を水蒸氣とは稱せざるなり、然るに此一種の水氣即ハち水蒸氣は、冷躰に觸るゝとき、其の熱を失つて、初めて人目に見らるべき水質と爲る、此に於てか彼のキリとなり、クモと爲り、ツユと爲り、アメと爲る、而して此の雲霧雨露こと〴〵く皆な水蒸氣が凝まり成したるものなり、左れば、水蒸氣が如此くに凝まり變ずるをば凝集英語にカンデンセーションとは申す。

扨て、斯樣にして空氣は見る可らざるの水蒸氣をば含み保つとなるが、此の水蒸氣を含むの多少は、全く空氣の温度の高低によつて相違あるなり即ち、空氣の温度高ければ水蒸氣を含み得るの量多く、温度低ければ其の含み得

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るの量少なし、例へば吾々が吐き出す息氣即ち口より出づる所ろの空氣の中にも、亦た多少の水蒸氣を存するとなるが、此の息氣を吐き出したるとき、若し四面溫かなる折りには、其息氣何如とも見へざれども、若し四面寒冷なるときには、息氣乍ち形を現じて一種のキリの如きものとなるべし、之は何故ぞと云ふに、第一の折りには、外の空氣溫かにして水蒸氣を含み得るの量多きが故に、息氣の中の水蒸氣をば悉く含み去るを以て、扨ては何んたる形ちをも現ぜしめざるなれども、彼の冷氣なる節には、空氣が水蒸氣を抱くの量少きに因り、卽ち口中より出でたる丈けの水蒸氣をも、一分は直ちに凝結せしむるものと

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

知らる、更らに分り易き一例は、汝ぢ若し鏡に向つて息氣を吹きかくれば、鏡の面て乍ちクモリを生ずべし、之れ鏡の面ては他方よりも冷やかにして、息氣の中の水蒸氣を抱き得るの量少きにより即ち其一分をば直ちに凝結せしむるなり、(之は、水蒸氣が冷躰に會へば直ちに凝結するとの證據にも爲り、又た今ま申すところの證據ともなる也)要するに、斯樣の道理存するわつて、凡そ空氣は温たかなれば爲る程、多くの水蒸氣を含み、其の冷やかなれば爲る程、水蒸氣を含むと少し。

左れば、一旦多くの水蒸氣を含み居つたる空氣と云へども若し其の空氣の温度が前よりも冷やかに成るときは、

六〇

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

浸滿點及ひ結露點

則ち其の水蒸氣を含むの量も亦た隨がつて減却せんと當然の理なり、故に前に百と申すはどの水蒸氣を含み居たる空氣が、若干溫度冷却するときは、最早や此の百丈けの水蒸氣を含むことを得ざるにより、勢はい百の中の多少の水蒸氣は凝つて目に見らるべき露霧の如きものと成らざる可らず、故に此の前に見る可らざる水蒸氣が、一變して目に見るべき所ろの水氣と爲らんとする當時の溫度を呼んで浸滿點（サチウレーション、ポイント）若くは結露點（デウ、ポイント）と云ふ、蓋し一は空氣中に出來る丈けの水蒸氣を滿たし浸して居るの意を示し、一は此の時よりして始めて露を結ぶの方向に向ふの義を示す名目は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

蒸發

異なれども其意義は同じ。

扨て、然らば、此の空々漠々たる限りもなき天地四方の廣ろき空氣の中に何處に至るも常に多少の水蒸氣の存する程に多くの水蒸氣あるは、抑も何の處ろより出で來りしやと問はんに、之は先づ、心得の爲め、皿に水を盛るか又は更らに宜しきは何か黑き器に水を盛り水面の高さを其の器に印しして、日光の當る處ろに出し置くに若かず、斯くて凡そ一二時間を經れば、水面の高さ著るしく低くなり、器內の水は大ひに減じたるとを見るべし。

抑も僅かに差し渡し三四寸の小さき器の中丈けにしても、其の日光に當る時は暫時にして、斯く迄に水量が減ずる

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

温かき日に蒸發の多き理由

を見れば、此の廣ろき洋海河川の表面より、日々に減じ去る水量の夥たゞしきとは、實以て考へにも及ばざる程のものならん、左れば彼の廣ろき空氣中に、何處にも水蒸氣の存するは固より驚ろくべきとなれども、又此の廣ろき水面の何處よりも常に水蒸氣の立昇るとを思へば、是れ亦同様に驚ろくべきとならん、扨て、如此く水面よりして水蒸氣の立昇り行くをば稱して蒸發即ちエバポレーションとは申す。

空氣温たかなれば、水蒸氣を含むと多く、空氣冷やかなれば、之を含むと少なしとせば、即ハち亦た空氣の温たかなるときは蒸發(水蒸氣の立昇る事)も隨がつて多く、空氣の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

空氣の乾濕と蒸發の多少の事

冷やかなるときは、蒸發も隨つて少きの道理なり、故に太陽赫々として輝やき、空氣溫まり居るときは、蒸發特の外に多し、彼の濕りたる道路を見よ、夏は冬よりも早く乾き、晝は夜よりも早く乾き、溫かき天氣の日は冷やかなる天氣の日よりも早く乾かん、是れ即ち溫かき折りに蒸發の速やかなる證據なり。

之と殆んど同樣の理にて、濕りたる天氣の折りには、蒸發少なく、燥きたる天氣の折りには、蒸發多し、是れ即ち既でに空氣中に存する濕氣の多少に由るとにて、濕りたる天氣の日には、空氣中に存する濕氣多きゆへに、則ハち水蒸氣を立昇らすると隨つて少なからざるを得ず、燥きたる

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

蒸發は溫氣を奪ふ事

天氣の日には、空氣中に存する濕氣少きゆへに、則ハち水蒸氣を立昇らすると隨つて多からざるを得ず、天氣の乾濕に由つて、蒸發の多少ある、固より當然の事なり。故に洗濯しても、大層に早く乾く時と、乾きの餘程に遲き時とあり、則ハち是れ、其の折々の濕氣の多少に由つて斯る相違ありと知るべし。

扨て又た、水の蒸發するときは、此の蒸發と共に、多少の熱を奪ひ行くものなり、試みに汝ちの手の甲に、水一滴を落し、之を日に當てゝ乾かし見るべし、其乾き行くと共に即ち其の蒸發し行くと共に、手の甲の冷たくなるを覺ゆべし、是れ手の甲よりして、幾分の溫氣を奪ひ行くがゆへ也、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

空氣中の水蒸氣の高の事

此故に、水蒸氣は温氣を奪ひ行く、而して此の水蒸氣が凝集するときは、前に奪ひ行いたる温氣を放つて元に回へすもの也。

以上申したる空氣中に存する水蒸氣は、之を窒素酸素等に比ぶれば、其高もとより尚は少なけれども、然れども其の空氣中に含まるゝの高、之を總計すれば、實に莫大のものなり。嘗て或る學者が計算したる所ろに由れば、一年中に地球の表面より立昇る水蒸氣を總計すれば彼のフランスと云へるほどの大國全躰を覆ひて凡そ高さ一英里に至るほどの水と爲るべしと云へり、實に其の量の夥しきを示すに有力の說と思はる。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○子供の話し

第八回　母の愛

今は刈入れ時にして農夫は皆一家を擧げ刈入場にあり刈入に餘念なくありましたがフト小供が泣く聲が聞こえます其聲は一番早く母親の耳に入りましたから頭を回して見まするに大な鷲が何やら攫みて飛で行きました通例の人には何だか明かに見へませなんだが母の目は恐しひもので慥しか其の子であると云ふ事を知りました處で母は狂氣となりまして只一目に其子を目つめまして一散に逐ふて行きます何がありても馬か居りても無二無三に行くものですから後より數人の荒男は追ひ懸けましたけれど中々逐ひ付きませぬ彼是する中に鷲は山深く飛び込みました其山と申すがこれまで人の行た事のない險山でありますからアノ山へ這入りたら迚も及ばぬ殘念な事であると皆里の人は云ふて居りますうち彼の母親は何の恐もなく空を飛ぶ如く其山に入りました其勢は全く人間ではあるまいと人は皆瞬して居る程でありました時に鷲は或る巖の上へ止りまして暫く息ひましたが鷲は玆處へ置くなれば安全と思ひましたのか但しは母親の愛が其子を引き付けましたのか其子を其所へ置きまして又里方に飛び行きました次で母親は其巖の上に上りま

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して其子を抱き上げましたに幸にも別に深き傷も御坐りませなんだから非常に喜びまして接吻したり眺めたり暫くして居りましたがイザこれより歸らんと里の方を見下しますと雲は遙かの麓で續き險しき巖危き谷何所となく身の毛立ばかりありました何如して〻ーあの山を越へたろかこの子を連れてその谷は下れぬもし狼にも逢もせば此子も如何せんサリトテ此所に留まらは日も暮れ再び獸も歸り來ん如何せばよからんアヽ恐や此山と獨り巖の上に足踏して居りましたに谷の底からオーと云ふ聲の致しましたイヤ獅子が吼ると云ふ斗り其儘其所へ氣絶致しました其オーと云ふた聲は獅子の聲ではなく村人が母親の後を逐ふて探しに參りました聲でありました母親の勇氣前と今と非常に違ひますこの勇氣の斯くも違ひますは必す道理かあければなりません扨て里人は一度も人の這入し事のなき恐しき山に這入りましたものですから皆恐れ入り縮みまして中には此山に這入ては迚も命はなきもの生なき者を探さんは無益の事歸るに勝る事なしと云ふ人もありましたが中には去りとて棄て置くは人情でないと云ふ者がありましたなれど何れへ行きたかサッパリ標がありませぬゆへ當惑をして居りましたか或る巖の上に血の痕がありました能く〳〵見れは段々と續て居るこれは母親も猛き獸に噛み殺されしに違ひなし折角の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

事ゆへ何所まで續くか試して見んとて皆一同に死物狂の如き勢で其血を逐ふて行きますと暫くして彼の岩の上に倒れて居ります母親を見ました皆大に喜びまして近きて見れば其子をシッカと抱きて居ります外に少しも傷は御坐りませなんだが跣足で山を走つたものですから足は痛く傷きて居りました思ふに前の血の痕は其歩みた足痕でありましたろと云はれて能く見ればナル程足痕に違ひない五本の足の痕が見へましたナニハトモアレ先づ其母をかいほう致しまして氣を付け臺に乘せまして家に連れ歸りました其後數年を立ちまして後聞きましたに其子が生長致しまして至りて不幸なる者となり果てまして母は始終これを苦に致しまして遂に積て病となり空くなりましたか其臨死の一言（否死すまで貫きし長き間の母の愛）其子を改心さしました次で其子妻を持ち子を擧げまして愈母の愛を覺りました

第九回　柔順なる娘

昔し或る大名の家に至りて柔順なる娘がありました遙か隔りたる或る大名の息子と結婚の約束が出來ました雙方何れも親と親との約束で互の顔を知りませぬ愈婚禮と定まりまして娘は親の命に從ひ只一人の婢を召し連れまして僅かの荷物を持ち馬に乘りまして出

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

立致しました其召し連れて參りました婢と云ふが至りて惡者で家の主人や奥方のご在宅のせつは至りて恐ろしく事へますれど影日向の有るやつで兎角娘に善く事へませんこの事親達は少しも知らぬものですから大切なる供を命じました初めより娘は此の婢と共に行くことは善くないと思ひまして一度は斷りましたなれど母親の命に從ひまして矢張其の婢と共に行くことになりましたが案の如く其國境を出でますと言葉の遣ひやう行の使やう全く違ひまして少しも娘の言ふ事を聞きませぬ聞かぬ計かりで無言でおればよきに追々と積りまして主人を手劇く使ひ其衣をはぎ其馬を取り自ら花嫁の形を僞りまして尚主人に迫りてこの事を決して他人に告ぐべからずもし告ぐるならば今此の所にて命を取らん命おしからば今日より我の婢とありこの言を他言せぬと申さるべしと無理非道の事を致しました娘は豫て心配はして居りましたなれどまさか斯くまでは致すまいと思ひおりましたに意外の擧動にあきれました實に腹は立ち殘念でたまりませなんだがこれも定まりたる事と思ひあきらめまして少しもさからひませず其婢の云ふがまに／＼に致しましたからして今よりは花嫁は婢となり婢は花嫁となりましたこの事少しも知らぬものですから彼の大名の内へ行きますと花〻敷出迎へて最と賑はしく結婚の式を終へました其

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

眞の花嫁は門の外に立ちまして聞けバ聞く程舞の音歡の聲が腸を斷つやうに覺へましたがさりとて語ふ友もなき有樣ですから常々愛して居りました馬の鼻の上を撫でゝ漸く憂を慰めて居りましたそれとも知らず其家の老主人ハ余り目出度にうかされまして庭に出で月を踏で何やら口吟みして居りましたが不圖彼の娘が目に付きました美しき上に上品にて女が淋し氣に見へましたものですから不思議に思ひ近きまして樣々尋ねますれど只ハイ〳〵と申す斗少しも申しませぬものですから致し方なく或る僕に命じまして一の室を與へ休息させました翌日となりまして老王ハ花嫁の遊びて居りました室に至りまして彼の娘の事を談しましたに花嫁の申ますにハあれハ私の婢で御坐ります至りて働きづきて一時も息めば氣色が惡ゐと云ふ性質の者であります大方昨晩氣色わるげに見へしとおつしやるハ昨夜ハ別に用のなきゆへでありましよう今日ハ早速何なりとも用を命ずるがよろしくありましやう何か用ハ御坐らぬかと尋ねました老主人ハ別にこれと云ふ用はあけれど羊を畜はしめるこそよかるべしと申されました其より每朝彼の娘ハ獸のお供を致しまして牧場に羊を飼ひました茲に一つの不思議と申すハ彼の馬です凡て馬ハ記憶のよき者で能く主人を覺へて居りますが別してこの馬ハ賢こき馬と見へまして途中の出來事

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なども何となく知りおりますゆへか花嫁と見ると常に飛びかゝりまして噛み付ふと致しますこれに引かへ彼の娘を見ますと鼻を動かして喜びます毎朝常に娘の後に付きて牧場へ参ります老主人ハ馬の擧動最と怪しく思ひまして或日其後につきて牧場に参りまして見ましたに馬ハ別に異りた事ハ御坐りませぬが何様其娘を主人の如くに事へる樣に見へます且つ其娘の顔を見れば月下に一寸と見ましたに引かへ朝日が草の露を照らし清き流れが靜かに流る處へソット坐りておりました其姿の氣高き事美しき事天の使の天下りたるかと計り思ひまして能く／＼見れば金の耳環は日の光に光りまして顔に一層の光を加へますが見へましたそれより直ちに家へ歸りまして彼の花嫁を見ましたに主人程か同し位の人とは見へませぬ其の言葉の使ひやう行のしやう誠に下賤であきれる計りですソコデ老主人は愈疑ひまして或日竊かに彼の娘を招きまして篤と尋問致しましたなれど只某大名の内より參りた者でありますとのみ申しまして婢とも主人とも申しませぬが其時不思議にも其左の紅さし指にさして居りました金の指環が見へました老主人は彼の耳の金環さへ婢の身分で致すべき限にあらずと思ひましたに今又金の指環を見たものですからこれは婚禮の時に用る爲めに違ひなしさすれば彼が眞の花嫁ならんと愈信しました此處

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

が天の罰と申しまするか彼の悪き婢が自分が花嫁とならんとて主人の衣服まで取りましたが彼の大切の指環を取る事を忘れまして結婚の席で思ひ出しましたなれど致し方なく嘗てより持て居る銀の指環で間に合はした事でありますがこれが種となりまして老主人は段々と探索を致しましたに彼の娘は一の守を持て居りました守りと申すも別のものでは御坐らぬ國を出立する前夜其母が自つから筆を取りまして女は柔順を可とすと云ふ文字を書き其の下へ母の名を記して娘へ渡しましたものでありました老主人はこれを見まして愈疑ひなく疑ひき程か明ある證據があるとて其由を其息子に告まするど息子は非常に立腹して直ちに切り殺さんと致しましたが生命だけは助けてくれと彼の娘が竊かの願ゆへ彼か愛心にめでゝ宥しやれと申しまして其より衆くの人々を招き其人々の前面に彼の僞の花嫁を呼び出しまして離縁の申し渡しを致しまして次で花々敷宴會を設け改めて彼の柔順なる眞の花嫁と結婚致しました國中其噂を聞きまして皆其美徳を頌ひました實に女は柔順を尊ぶと云ふ事が代言人となりまして心なき指環や獣をさへ使ひまして一言も言はぬ娘の身の上を明しましたとは眞の話しでは御坐らぬか。

述者云　此の話脚色を付けて面白くお話し致す腹稿なりしが今度ハ只其骨のみ申し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

上ぐる事と致せりこの話をなさる人々はお銘々の御工夫を以て彩色し玉へらば幸甚

第十回　英雄の所業

私は　先達て町を散歩致して居りました折加藤清正とか木下藤吉とか新田義貞とか書いてある旗を賣つて居る人を見ましたが又近頃は學校の御小供衆が頻りと右の旗を持ちあされて戰の眞似をあされ英雄氣取りて居らしやるを見ます我供日本人の考へでは何デモ英雄と云へば人の首を切つたり國を攻めたり大食を食ふたりするやうに思ひまして英雄とならんと思ふときは是非右樣の事を致さねばならぬと考へます西洋の人はこれとサッパリ違ひまして人を殺したり國を攻めたりする事は野蠻人のすることゝ賤しめまして却つて英雄の所業と申すものは　私供の見て少しも目立のなき事を申します或る書物に英雄の所業としるして書きました實事の譚がありますから一寸お話致しましよ。

昔しアメリカと申す國がイギリスと申す國と戰爭を致しました時にアメリカの軍の役人にチヤスパーと申す人がありました其人の兄はイギリス方の役人でありましたゆへ時々其許に話しに參りますことがありましたが或時アメリカ人が擒とあつてイギリス方へ送らるゝと云ふ事を聞きまして其友達のニユトンと申す人と共に連れ立ち囚人の居る所へ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

行きて見ますに屈強なる男子五六人何れも疲たる躰にて誠に可憐の有様なるに其人達は皆我味方の人達にて敵の爲めに捕へられしと思へば最とも何堪へざる思の起りますに近き能く見れば一人の女甚だ見醜き風躰にて甚だ貧困なる者と見へますが其良人を愛するの愛情には中々富たる婦人でありまして始終良人の面前に坐りまして良人を慰め又一人の膝に置ける小児をいたわりまして居りまする其志と云ふ者はアッパレなる女丈夫でありますこれが我が米洲の婦人であるかと思へば愈々敬するの念を起しまして斯る貴き婦人を無惨にも敵手に苦しますとは如何に可憐の事ともなりこれを見たる我こそ此の人達を救ふの義務あり素より敵は大勢にして所詮敵すべしとは思へねど義務の爲めには我身の死するも厭いじ是非に一度は死なねばならぬ命なれば寸時を竊みて義務を欠くの人と笑いれんよりは廉よく身を義の爲めに捧ぐると我身今日の務なりとジャスパーは決心致しまして其趣をニユウトンに告げましたニユウトンも同なじ思でありましたゆへサラバ二人が共に力を合せて彼等を救ひ見べしと暫し相談を致しまして少し離たる湖の邊に隱れて彼等の來るを待ちて居りました案に違はず彼等は湖の邊に來りまして水を飲まんとて持てる鐵砲を木の根におき汀近く行ましたる其時ジャスパーとニユウトンは虎の如

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くに走りまして木の根に置いてある鐵砲を奪ひまして番兵を射ました素より二人は一隊の大將でありますから鐵砲には甚だ達して居りましたゆへ一發も空砲のありませず脆き番兵共は見る間に仆れてしまいました二人は喜びまして急ぎ擒の繩をとき種々に勞りまして喜しくアメリカの軍陣へ連れ歸りました陣中には其の評判を聞きまして皆ジャスパー、ニユウトンが働の實に英雄らしき所業ありとて大にこれを賞めまして其手下に戰ふを喜ぶやうになりました今も尚其所業を賞しておきませぬナント日本人の思ふ英雄とは余程違た者では御坐らぬかドチラの英雄が眞正の英雄であらうか私はドーカ文明國の英雄が欲しくあります。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

交詢案内新設の事

女子に職業を與ふる事は當今甚だ緊要と存じ候ところに世にある慶安と云へるものには弊害尠からず又高等の人々は周旋の便利すこしも無之甚はだ殘念と存ず因て吾社は此度餘暇を以て此等の人々の便利を圖り今後女學雜誌の廣告欄内に交詢案内の一部を設ふけ女子の職業に就くの都合を計りたく希望せり

交詢案内の規則

此の案内は吾社員が餘暇を以て致すと故手數料等は一切申し受けざるは勿論なりされば依賴の人々も決して催促がましき事を申越されざる樣預め願置候事

女教員、うば、こしもと、奉公口、其外さまざまの女の職業につき雇ひたしと思ふ人及び雇はれたしと思ふ人々は其由を細かに申越さるべしさすれば其趣を無名にて番號を付し女學雜誌にて廣告すへき事

雇ひ主及望み手は此の廣告を見て第何號の口へ御世話ありたしなど勝手に申し越さるべし左すれば吾社は其間に立ち双方へ申送り相談とゝのひたらば喜びのめぐみとして廣告し一の女職の道を開きたる事を姉妹方と共に祝ふべき事

前申す如く手數料は一切要せざれども雇ひ主及望み手の双方へ一應の問合せと其後ち否やを返事するとにより少くとも三四回の郵便を出さずばなるまじければ双方とも御依賴の初めに郵便切手十錢を封入して申越されたき事

東京京橋區日吉町　女學雜誌社

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

持主兼編輯人　東京々橋區日吉町八番地寄留　嚴本善治

印刷　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

東京秀英舍印行

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY